

I 章. 教育課程編成の基本的考え方

1. 従来の考え方と再編成

(1) 昭和62年度（1987年）の改訂

本校の教育課程の編成は、学習指導要領の改訂や養護学校義務制実施などを節目としながら昭和39年度（1964年）41年度（1966年）50年度（1975年）62年度（1987年）と過去4回行われてきた。

前回の62年度は養護学校義務制以降初めての編成で、「すべての障害児にゆきとどいた教育を」という視点に立って「一人一人を大切にす教育」「教育内容に子どもをあわせるのではなく子どもの実態から出発し、子どもにあわせた教育」を根底に据えて行われた。

そのことは教育目標に最もよく現れており、それ以前の「社会適応をめざし職業的自立ができる子」から「自己実現をめざす つまりその子らしさを発揮して生きる子」に変わっている。62年度以前の教育目標は障害の改善・克服に重点を置いて指導を行い社会へ適応することを第一に考えるものであったが、62年度以後は発達する主体は子ども自身であることを明確にしたものとなった。

この時の教育課程の改訂の重点は

- ① 重度の児童・生徒の教育内容
- ② 教科学習の位置づけとねらいの明確化
- ③ 集団学習における集団の役割と吟味
- ④ 「学習単元表」という本校独自の表記から「年間指導計画」への変更

の4点であるが、特徴的なのが③の集団学習である。本校では昭和54年度（1979年）から60年度（1985年）までの6年間、養護学校の義務制実施に伴う児童生徒の障害の重度化・多様化に対する教育的対応の一つとして集団学習を取り上げてきた。集団学習では「子ども同士の豊かなかかわり合いを育てる」ことをねらって、各学部毎の「部集団」はもちろん「中学部・高等部集団」・「全校集団」での学習を位置づけた。

特に全校集団での主たる活動となる「全校集会」では、すべての教師がすべての子どもを知る機会と捉えて全児童生徒及び全教師が参加している。全員を色別に4つの縦割りグループに編成しゲームなどの活動や運動会の時には、そのグループを活用している。全校集会のような異年齢の集団の中では、下級生が上級生のまねをしたり、上級生が下級生の世話をするといった縦のつながりを見ることができる。また、みんながいることに支えられて活動できる子どももいるのである。このように、学級・学年・学部を越えたかかわりの中で、子どもの多様な姿を見ることができる。

「集団学習」の形や内容は少しずつ変わってきたが、その主旨は変わることなく今回の教育課程の編成にも受け継がれている。

(2) 昭和62年度の改訂以後の変化

① 障害観の変化

1980年代からのノーマライゼーションの理念が広がり浸透するとともに、「障害」を個人の特性としてよりも、まわりの状況との関係（社会的不利）として捉えるといった新しい障害観が出てきた。それに伴い「自立」も「社会的に適応し、職業的に自立する」ことから、「たとえ働くことができなくても

そして、周囲の多くの人に助けられながら生活していくのであっても、自己選択・自己決定が保証されて生活していくのであるならば『自立生活』だと考える^{*1}」といったように、本人の意思が重視されたものになってきている。さらに「ゆとりの教育」が提唱された前後から、生活の質（QOL ～Quality Of Life）も問われるようになってきた。

これらの考え方の変化は障害児教育の現場においても例外ではない。「自己選択」「自己決定」「自己実現」といったことばで表されるように、子どもがもっと自分で選んだり決めたりすること、つまり自分自身が生活の主体者となることが求められるようになってきている。教育課程の編成にも、従来の「本人の力での取り組み」に加えて「本人の意思での取り組み」の視点が必要とされている。^{*2}

② 児童生徒の実態の変化

義務制以降、本校では自閉的傾向をもつ児童生徒の割合が増えてきた。またそのころから「友達とかかわり合いがもてない子」「こだわりが強くいらいらしている子」「何らかの指示がないと動けない子」「休み時間にしたいことがなくてウロウロとしてしまう子」が目につき始め、重度・重複とはまた違った障害の多様化が感じられるようになってきた。

こういった児童生徒の実態を目の前にして、教師が「こうするよ」と子どもを引っ張っていくのではなく、ゆっくりとその子からの発信を待つて手助けをしていこう、その子の気持ちを大切にしていこう中で「自分から進んで自分の生活を良くできる子」を育てていこうという方向が生まれ、新しい障害観とも関連して教育内容や指導法を見直す動きが出てきた。

③ 研究テーマ「豊かな心と生活をめざして」

テーマ設定にあたり、日々の実践や研究を子どもの実態から始めよう、もっと子どもに寄りそって考えようという思いで、各学部研究会や全体研究会において児童生徒の学校生活の様子や、私たちが子どもたちに願う姿や思いなどを話し合った。願う姿や思いとして「いろいろな体験を通して自ら考え、行動できる人になってほしい」「現在の学校生活を豊かにしたい」「その子らしさ 生きる喜びを大切にしたい」などの意見が出された。これらの児童生徒の実情、障害者教育をめぐる社会的動向や子どもの内面のさらなる充実といった教育的ニーズなどを考慮して「豊かな心と生活をめざして」というテーマが設定された。

(3) 「豊かな心と生活をめざす」教育課程

① 新しい指導の形態

「豊かな心と生活をめざして」という研究テーマの設定の時期と前後して、各学部において今まで行われてきた活動を教育課程上に位置づけたり、生活や地域に密着した新しい実践が行われたりするようになった。

小学部

小学部では昭和50年前後から学部の集団学習として「小学部朝の会」という時間を設けてきた。その頃のねらいは学級集団の活動だけでなく学部集団の活動を設けることで学校生活にメリハリをもたせることであった。平成6年度（1994年）から「豊かな心と生活をめざして」の研究テーマのもと「小学部朝の会」のあり方について再検討が行われた。ここでのねらいは、人やものとのかかわりをもてる子ど

もが少なくなってきたことから、「かかわり合いを育てる」ことが中心となった。その結果、単元構成型の集団学習とでもいうべき学習活動が誕生した。また、子どもたちを縦割りの4グループにして、他の学年の子ども同士がかかわり合う機会をもちやすくした。高学年の児童にはグループのリーダーになってもらい、役割意識が育つようにはたらきかけるようにした。このような学習活動には従来の「小学部朝の会」という名称がそぐわなくなってきたため子どもたちが言いやすく、楽しさを連想するように平成8年度（1996年）に「ランランタイム」と改名して現在にいたっている。

一方、平成13年度（2001年）から小学部の学部目標の「学ぶ力を育む」について詳しく検討することを学部研究としてとりあげた。学ぶ力を子どもの興味・関心・自発性・意欲と捉え、それらを育てる糸口をさぐり日々の実践につなげることをねらいとして「ほっとタイム」という時間を設定した。

中学部

中学部では平成元年度（1989年）に、それまでの学部朝の会やゲーム学習（教科学習）に変えて、「ハッピータイム」という学部集団学習の時間を設けた。これは、様々な集団活動を通して、生徒同士のかかわりがより豊かになることを願って設定したものであり、「みんなと一緒にいることが楽しい」と感じ、自分と自分のいる集団に対する意識を育てることを目標に、自己開放・自己表現の力を育てることをねらいとした。

さらに平成6年度、以前から「生活」の時間に行われていた散歩の実践を、重要な取り組みの一つとして位置づけ、「人・もの・社会・自然とのかかわりを通して、仲間意識を育てるとともに、自己選択・自己決定・自己表現の力を育てる」ことをねらって「散歩」と位置づけた。

平成10年度から、「フリーデイ」という『ずっと長い休み時間』を設定した。自分で考え、行動することで、自己判断・自己決定の力を育て、『生きる力』を培うことをねらっている。子どもたちが自ら自分たちの生活をつくる姿勢を身につけるとともに、教師にとっても子どもを理解し、一人一人の課題を見つけ、子どもの求める学びを知る機会となっている。

高等部

高等部では、平成6年度、集団学習の一つとして「レクリエーション学習」を位置づけた。高等部全員の集団で活動することに加え、同年代の子が幼い頃からの遊びの体験から共通してもつレクリエーション財の蓄積がねらいであった。さらに平成7年度（1995年）には、学校週5日制の導入や余暇の時間の使い方を考慮しながら自分の楽しみや生きがいを見つけるための学習である「ほんもの学習」を位置づけた。平成12年度（2000年）にはより個人的な、卒業後の生活の楽しみとなる「趣味学習」の実践を行った。「ほんもの学習」も「趣味学習」も、教師が提示した4～5のコースの中から生徒自身が好きなものを選ぶという方法で行ってきたが、平成13年度（2001年）にはそれをひろげる形で高等部の授業の一部を選択制とし、生徒にとってより魅力的なカリキュラムが組めるようなシステムを模索している。

各学部から出てきたこれらの実践を一覧表（表I-1）にまとめた。今回の教育課程の編成では、これらの指導形態を教育課程上に明確に位置づけている。

表 I-1. 各学部における新しい指導の形態や教育実践

	小学部	中学部	高等部
昭和50年代	「部朝の会」		「挑戦学習」
昭和62年度	↓		↓
平成元年度		「ハッピータイム」	
：			
6年度		「散歩学習」	「レクリエーション学習」
7年度	↓	↓	↓
8年度	「ランランタイム」		「ほんもの学習」
：			
10年度		「フリーデイ」	
11年度		↓	
12年度			「趣味学習」
13年度	「ほっとタイム」		↓
	↓	↓	↓
	↓	↓	↓
			選択制の導入
			↓

② 今回の改訂の重点

「豊かな心と生活をめざして」というテーマで研究を積み重ね、今回の教育課程の改訂で大切にすることは次の4点である。

児童生徒の体験を重視した活動の充実を図る

本校では従来から児童生徒の発達や生活年齢に合わせて、そのバランスを考慮しながら、領域・教科別の指導とともに領域・教科を合わせた指導（以下合わせた指導と表記）についても力を入れてきた。今回の改訂では各部の新しい指導の形態や教育実践に見られるように、集団学習と合わせた指導のより一層の充実がなされている。人とかかわる活動や地域に出ていく活動、自分で考え行動する活動や課題解決的な活動といった、子ども自身がその体験から学ぶ学習を重視している。

自己選択、自己決定の機会をもつ

小学部では、子どもの自発性を尊重した「ほっとタイム」を設けて、「したいことを自ら見つけ、好きなことに夢中になる」子どもを育てたいとしている。中学部では「フリーデイ」の中で「散歩」のねらいでもある自己表現・自己判断・自己選択・自己決定の力を養うとともに、自らまわりに働きかける力を高めることに重点を置いている。高等部では生徒自身が自分の学びたいことを自分で決める選択制の学習を設けている。その時期に応じて「自分で・・・する」といった、子ども自身が選んだり決めたりする活動を取り入れている。

地域を活用する

本校は金沢の中心部の立地条件に恵まれた街中にある養護学校である。バスの便が良いばかりでなく、兼六園をはじめとするいろいろな名所や公園、歴史博物館や県立美術館といった公共施設が周囲に点在している。さらには卯辰山、浅野川などの自然環境も豊かである。この特性を十分に活かすべく、どの

学部でも定期的にまた機会を捉えて校外での活動に取り組み、小学部の「校外学習」（生活の中の指導項目）、中学部の「散歩」（生活の中の指導項目）、高等部の「ほんもの学習」（総合的な学習の時間の中の指導項目）という流れとなっている。また、本校近辺の保育園、小学校、中学校、高校とも交流をしている。

積極的に地域へ出ていくことで、子どもたちは自分の生活をしている場を知り、その認識を深め、地域につながっていく。また、地域に出ていくことは本校のことを知ってもらうことであり、一人一人の子どもを知ってもらう機会ともなっている。

部の独自性を個の12年間につなげる

「豊かな心と生活」のテーマのもと、「今・ここにいる子どもの実態」から始め、実践を中心にして研究を進めてきた。また各学部を「大人に依存することが多い中で自分づくりの基礎を固める時期」（小学部）「依存から自立へと移行し、自分を作り上げる時期」（中学部）「周りの人たちと協調・共同しながら、自己決定や社会参加をする時期」（高等部）とした。それぞれの時期に何が必要かを系統立てて考えるとともに、その時期ならではの学部としての独自性もまた大切にすることで、児童生徒一人一人の育ちの中で12年間を一貫した流れのあるものにしたと考えている。

Ⅱ章の「教育課程の内容表」には、各領域や教科ごとに前文を設けてその位置づけや特徴、大切にしたいことがわかりやすいようにした。また、書けるものについては題材例や実践例の中に具体的な地名や活動を記すこととし、「本校らしさ」を表した。

※1 渡邊次男 「精神薄弱児（者）の福祉と動向」全精P連会報（1995）

※2 小出 進 「第39回全特連全国大会基調報告」発達の違いと教育No. 522（2001.2）

2. 教育目標

(1) 本校の教育目標

本校の教育の基本理念は次の教育目標に要約されている。

本校は、心身の発達に遅れや障害のある児童生徒に対して、その実態に即した指導をおこなうことにより、一人ひとりの全面的な発達をうながし、その子らしく精一杯生きる力を育てることをめざす。

この目標は、発達する主体は子ども自身であることを明確にし、子どもたちの実態に即してかかわりを持ち、一人一人に内在する発達の芽や個性を大切にしながら伸ばしていくというものである。かつては子どもたちの障害の程度から「一般就労の可能な子」「身近生活の自立をめざす子」といった序列づけが早々におこなわれ、それにむけての指導がなされるなかで「その子らしさ」が見失われがちになることもあった。もちろん、社会的に自立すること、職業的に一人立ちすることそのものを否定してはならないし、そのこと自体大切に考えていかなければならないが、それは子どもたちが生活の中でいろいろな力をつけ、内面が豊かになってその子らしさを精一杯出すことができこそ意味をもつと考える。

「全面的な発達」は、能力的側面から「あれができた」「これができない」といった狭い捉え方をするのではなく、それを人格形成との関係でみていきたい。すなわち「このような力がついて、気持ちの点でもこのような積極面がでてきた」といった観点が必要であるといえる。人格形成の面では「その子らしく」ということが特定の関係においてではなく、様々な人間の関係（＝集団）の中において個性豊かに発揮されなければならない。

「生きる力」とは、かかわりのなかで自分らしさを出しながら生活していく力である。自分の力で自分の欲求や希望をかなえることや、人やものや周囲に働きかけることで、自分にとって望ましい方向に生活を変えていく力のことである。子どもから出てくるそれらの生活力を時と場合・場面に応じて肯定的に受けとめて、応えていきたいと考える。

本校の教育目標は、子どもが主体的・能動的な活動を展開するというを前面におしだし、個性豊かな人格づくりをめざすことに重点をおいている。

(2) 各学部の教育目標

本校の教育目標を受けてそれを学部毎に具体的に表したものが次の「各学部の教育目標」である。

小学部の教育目標

- ① 学校生活のリズムに慣れ、見通しをもって活動する
- ② 基本的生活習慣を身につける
- ③ 健康な体をつくる
- ④ さまざまな活動を経験して、学ぶ力を育む
- ⑤ 友だちや先生とのかかわり合いを拡げる

① 「学校生活のリズムに慣れ、見通しをもって活動する」

1日の生活の流れをほぼ一定に設定するとともに、一つの活動の中においてもおおまかな流れを組むなど、児童にとって見通しがもちやすいような配慮をする。朝の会や終わりの会などで予定を確認して

いくことも大切である。1日のリズムの積み重ねが1週間のリズムとなり、1年間のリズムへとつながっていくと考える。

② 「基本的生活習慣を身につける」

着替え、給食、排泄などに関する指導は日常生活の中で機会を的確に捉えて根気よく丁寧に積み重ねていく。児童の実態をきちんと把握した上で当面の課題をみきわめ、一人一人に応じたかかわりを心掛けるとともに、家庭とも密接な連携を行っていくようにする。

③ 「健康な体をつくる」

学童期の極端な偏食は心身の発育に大きな影響を及ぼす。バランスのよい食生活をめざし、給食においてはマナーの指導とともに、偏食指導にも重点をおいて取り組んでいる。楽しくおいしく食べるという雰囲気大切にしながら児童一人一人に応じたきめ細やかな指導を根気よく積み重ねていく。家庭とも連携して、おいしく食べられる食品や献立の幅が広がるよう支援する。

運動面においては、学童期には身体の調整力を伸ばすことが大切である。学校生活では体育や体育的行事、生活、自立活動、遊びの時間などでからだづくりを意識した活動を考慮していく。

④ 「さまざまな活動を経験して、学ぶ力を育む」

小学部では「学ぶ力」を好奇心、興味・関心、自発性と捉えている。学校生活全般にわたってその力を育めるよう、教師は学級経営や学習計画、教材研究、環境整備などについて努力・工夫していくとともに、望ましい支援を心がける。

⑤ 「友だちや先生とのかかわり合いを広げる」

週2時限行っているランランタイムでは、そのねらいを「かかわり合いを育む」ことにおき、友だちや先生への意識を高められるような活動を設定し、楽しく取り組んでいる。学級集団のみならず、いろいろな集団でのさまざまな活動を通して、人とかかわり合う経験を積み重ねていけるよう配慮し、支援していく。

中学部の教育目標

- | |
|----------------------|
| ① 基礎的な知識や生活技能を高める |
| ② たくましい心と身体を育てる |
| ③ 生活経験を広げる |
| ④ まわりに働きかける力を育てる |
| ⑤ みんなといっしょに生活する力を育てる |
| ⑥ 自分で考え、自分を表現する力を育てる |

① 「基礎的な知識や生活技能を高める」

日常生活の中で活用され、生活を広げ豊かにするとともに、社会の中で自分を活かす力となることをめざして指導する。教科的な学習から身近処理、健康・安全、あいさつやマナー、公共物の利用、身近な道具・器具の扱い、余暇の利用などその内容は多岐にわたる。指導にあたっては、一人一人の実態に応じて適切な課題を設定して行うとともに、家庭との連携も密接に行っていくことが必要となる。

② 「たくましい心と身体を育てる」

中学部の3年間は心と身体が大きく成長する大切な時期である。特に持久力をつけることが必要である。体育や全校集会でのリトミック、リズムタイムなどの時間の他、学校生活の様々な場面を捉えて、自分から身体を動かし、運動することが楽しいと感じられるように継続して指導していく。それが心の開放にもつながり、困難なことにぶつかったときにそれを乗り越えるための支えとなる『たくましい心と身体』へと育っていくことを願っている。

③ 「生活経験を広げる」

学校生活での活動はもちろん、散歩や公共施設の利用など校外に出て様々な経験をする。これらの経験が目的をもって行動し最後までやり遂げる力、課題にぶつかった時に解決のために努力する力、友だちと同じ経験をすることで仲間意識をもつ、楽しい経験を積むことで生活に意欲をもつなどの生活する力・生きる力を高め、豊かな心を育むことを願っている。

④ 「まわりに働きかける力を育てる」

人やもの・社会や自然と向き合い、様々な試みを繰り返す中で、新しい発見・学習を重ね、自分を高めていく。特に人との関係においては共感的に関係を取り合うことで、自分はどうしたいのか、相手はどうしたいのか、どう感じ取ったのかを互いに理解し合う。自分から自分の意思を相手に伝えたり、相手からの働きかけを受け入れたりできるように、いろいろな場面を設定してコミュニケーションする力を豊かにするように働きかけている。

⑤ 「みんなといっしょに生活する力を育てる」

自分と自分のいる集団に対する意識をもち、みんなと一緒にいることが楽しいと感じられる集団の活動を準備する。その中で自分の役割を理解し、きまりや規律を守り、みんなと協調しながら自主的に行動し、目標を達成したときの満足感や達成感を得させたい。学級・学部・縦割りグループなど集団の大きさや質を工夫して取り組んでいる。

⑥ 「自分で考え、自分を表現する力を育てる」

自分のしたいことを考え、見つけ、行動に移したり、みんなの中で自分を出し、まわりの人とかかわることができることをめざして指導する。自分の力と個性を発揮して生活していく力を育てたり、ハッピータイムやフリーデイ、運動会・表現会などの行事の取り組みの中でも自分で考え、判断し、行動する機会を多く取り入れている。

高等部の教育目標

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 健康な心と身体を育て、自立への能力や態度を養う② 自己選択・自己決定する場面や状況を通して、自分らしさを発揮し、より豊かな生活を送れるようにする③ 地域の人たちとのかかわりや公共施設の利用を通して、社会に参加する能力や態度を養う④ 学ぶことを通して、生活に役立つ知識を身につけるとともに、さらに学びたいという気持ちを育む⑤ 働くことを通して、有用性や自信を育て、社会生活や職業生活に見通しをもてるようにする⑥ いろいろな経験を通して、自分の好きなことややりたいことを見つけ、余暇利用にいかせるようにする |
|--|

① 「健康な心と身体…」

健康な心と身体はあらゆる活動の基本となる。まわりの人の支援を受けて、自らを肯定的に捉え、前向きな気持ちで生活できるようになってほしいと考えている。また、自分の身体の健康な時の状態を知り、それを維持・管理しようという気持ちと実践する態度を育てたい。毎朝の体力づくりや体育などの時間を通して、自分にあった運動やスポーツを見つけてほしいと考えている。

② 「自己選択・自己決定…」

高等部では小学部・中学部での学習や経験を基盤として、本人の意思による取り組みを大切にしていきたいと考えている。学校生活の中で自己選択・自己決定できる場面があれば積極的にその機会を取り入れていきたい。教科などの一部を選択制にするばかりでなく、日常生活や学習のなかの選択場面を積み重ねて、生徒自身が好きなこと、得意なことを選び、それを伸ばし、生活に生かせるようになることを願っている。

③ 「地域の人たち…」

卒業後は主に「働くこと」を通して社会にかかわっていくこととなるが、それ以外の時でも人や社会とかかわってほしいと思っている。そのため「生活」や「ほんもの学習」の時間を中心に、実体験を重視して地域社会にでていく社会参加の機会をもつようにしている。自分のまわりにどのようなものがありどう利用するか、またどのような人がいてかかわっていくかを知るばかりでなく、地域の人に学校や生徒のことを知ってもらう活動でもあると考える。

④ 「学ぶことを通して…」

生徒の「豊かな心と生活」をめざすときには職業教育や他の学習とのバランスを取りながら、教科学習にも力を入れていきたい。生徒の生活年齢を考えると基礎的な学習ばかりでなく、生活の質を高めるための内容や活動も取り入れていきたい。生徒の生活や課題から題材や教材を選び、基礎的・基本的な事項を伝え、生徒の生活を広げていくことが大切であると考えている。

⑤ 「働くことを通して…」

高等部では「働く」場面を、大きく「作業学習」の場面と「自分たちの生活を自分たちで担う活動」の場面に分けて捉えている。どちらの「働く」であっても、自分が働くことで人とつながり、人を喜ばせ、人に認められることで自らの有用性を見出すことにつなげていきたい。また、卒業後は殆どの生徒が働くことを通して生活リズムを作り、社会にかかわっていくことになるため、進路学習を生き方学習の一つと捉え、「仕事をする・仕事をして生きる」という気持ちを育てていきたい。

⑥ 「いろいろな経験を通して…」

在学中も卒業後も、生徒には「学ぶ」「働く」そして「遊ぶ」ことのバランスのとれた生活を送ってほしいと願っている。豊かな生活に欠かせないのが余暇の過ごし方である。自らの可能性を限ることなくいろいろなことに挑戦し、好きなことややりたいことを増やして内面の豊かさを掘り起こし、それを生活の場に生かしてほしいと考えている。

3. 「豊かな心と生活」のキーワード

(1) 「豊か」の捉え方

ここ数年来、本校の研究テーマに「豊かな心と生活」を掲げてきた。私たちは研究を進める中で「豊かさ」を次のように考えてきている。

- 平成6年度（1994年）
 - ・まわりの先生や友だちとものを介してやりとりができ、コミュニケーションがとれる
 - ・体験を通して学んだことをもとに、さらに経験を広め、深めていくことができる
- 平成7年度（1995年）－集団学習を中心に据えた実践の展開－
 - ・人とのかかわり合いの中で人間らしく生きること
- 平成8年度（1996年）－地域へ出ていく活動を中心として－
 - ・人や自然や社会とのかかわりの中でその子らしくのびのびと生きること
- 平成10年度（1998年）
 - ・人とのかかわり合いの中で生きる
 - ・身近なもの・自然・社会とのかかわりの中で生きる
 - ・自分らしさを発揮して生きる
- 平成11年度（1999年）
 - ・人・もの・自然・社会とのかかわりあう
 - ・自分自身を知り、自分の良さを発揮しながら活動する
 - ・学んだ基礎的な知識技能を生活の場で生かす
 - ・積極的に学習したり運動したりできる健康な心と体をつくる

また、小学部、中学部、高等部がどのような時期であり何が必要かを以下のように系統立てて記した。

小学部…大人に依存することが多い中で自分づくりの基礎を固める時期

情緒の安定、生活のリズム、基本的な生活習慣の定着、いろいろな動きづくり、大人に援助されながらできることを増やす、まわりの人たちと一緒に行動する、大人とのかかわりを楽しむ、友だちを意識する、身近な環境に働きかける

中学部…依存から自立へと移行し、自分を作り上げる時期

身体づくりの充実期、知識や技能を生活に生かす、自分を理解する、自分を表現する、友だちとつながり合う、かかわり合う

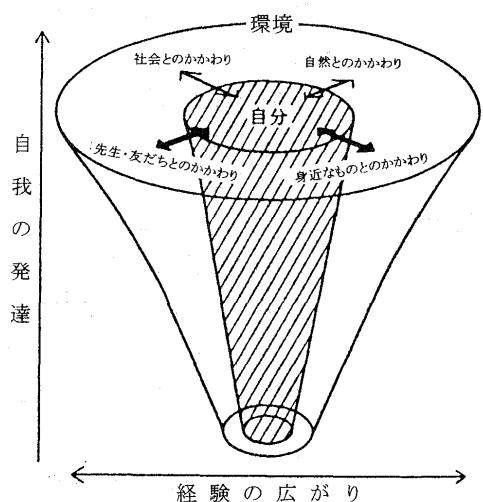
高等部…まわりの人たちと協調し合い、共同で自己決定や社会参加をする時期

余暇の過ごし方を身につける、社会とのかかわりの中で生きる、自ら判断し自己決定する、自分の良さを積極的に生活に生かす、友だちと協力し合い責任を果たす

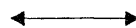
さらに、子どもが豊かに成長していく過程を次のように考え、図I-1の構造図のように表している。

人は家庭・学校・社会・自然などの環境の中で生活し、様々なことがらを経験している。小さい頃は自己中心的でまわりの環境への働きかけも身近なものだけにとどまる。だが成長していくにつれて、

ものや人とのかかわりを楽しみ、自分自身を見つめ相手を意識していくことができるようになっていく。自分を取りまく環境を知り、さらにそれらとかかわり自分の中に取り込むことによって、経験が広がり自我の成長とともに自分自身がより豊かな存在となっていくと考える。



意識してかかわりを
求めていく必要があるもの



日常的なかかわりが
あるもの



図 I - 1. 「豊かな心と生活」の構造図

(2) 紀要の観点から

今回教育課程の編成に際して、「豊かな心と生活」を研究テーマとした紀要から、各学部でそれぞれ大切にしたいことや大切にしてきたことに関する観点を抜き出してみた。

表 I - 2. 紀要からの観点

小学部	中学部	高等部
<ul style="list-style-type: none"> ○平成6・7年度 <ul style="list-style-type: none"> ・所属意識、仲間意識 ・思いやり ・認め合う ○平成8年度 <ul style="list-style-type: none"> ・活動自体を楽しむ ・季節にあった自然のもの、ほんもの多くふれあう ・自ら学び、表現する ・自発性、意欲 ・子どもたちのかかわり ・その子らしさの発揮 ○平成9・10年度 <ul style="list-style-type: none"> ・うごきづくり ・うごきをまとめる力 ・調整力 ・環境を整える ・学校生活のリズム ・情緒の安定 ・身近生活の自立 ・健康な身体づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成6・7年度 <ul style="list-style-type: none"> ・自然、社会とかかわる ・経験の共有 ・自己開放・自己表現 ・自己決定、自己選択 ・驚き、発見の伝え合い ・教師と生徒の関係 ・集団の中の自分 ・主体性の育ち ・生活経験の広がり ○平成8年度 <ul style="list-style-type: none"> ・有機的なつながり(教科と生活等) ・つながりを育てる ・その子らしさ ・みんなといっしょ ・教師の姿勢 ・自分で ・友だちを知る ・相互作用 ○平成9・10年度 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成6・7年度 <ul style="list-style-type: none"> ・場、ひと、ものとかかわり ・余暇 ・多様な経験 ・自らを見つめ他者を認める ・集団の中で個に合わせた指導 ・自分の楽しみ、生きがい ・実体験重視型の学習 ○平成8年度 <ul style="list-style-type: none"> ・自然、社会とかかわり ・成功経験、成就感 ・好きな趣味 ・好きなものを選べる ・友だちと誘い合って遊べる ・生徒が選択できる状況づくり ○平成9・10年度 <ul style="list-style-type: none"> ・生活に密着した内容 ・自己選択・自己決定 ・生活の幅が広がる教科学習 ・余暇活動につながる内容 ・活動のすそ野を広げる

<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験 ・認知、言語理解を高める ・集団生活の参加 <p>○平成11年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の幅を広げる ・身近な自然に親しむ ・豊かな感性を育む ・体全体で触る、働きかける ・色々な活動を経験 ・係、役割を意識した活動 ・地域社会に出ていく活動 ・友だちと一緒に楽しめる ・自分の思いを表現する ・生活年齢 ・指導の適期を逃さない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の充実 ・自主性、協調性 ・基礎的な知識 ・自分で気づき、行動する ・見通し ・コミュニケーション ・遊びを広げる ・処理能力 ・生活の主体者 ・生活年齢にみ合った環境設定 <p>○平成11年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生まれ変わりの時期 ・システムチェンジ ・生活を作る ・心を育てる ・親とつながる ・生活に根ざす ・教科の見直し ・お互いについての理解 ・教育資源の活用 ・指導の見直し 	<p>○平成11年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な内的世界、自己主張 ・経験が行動を生む ・生徒が課題を選択する学習 ・知的欲求、好奇心を満たす ・有用性 ・年齢相応の対応 ・自信、自尊の気持ち ・自分に価値を見出す ・学ぶ、働く、遊ぶのバランス ・自分の生活リズム ・大人としての自らを確立する ・生徒、教師のタイプを生かす ・通常的人間的ニーズを満たす生活 ・進路学習＝生き方学習
--	--	---

(3) 「豊かな心」と「豊かな生活」のキーワード

本校の「豊かさ」の考え方とともにこれらの観点を、似た意味をもつものごとに分類して「豊かな心」を育てるものに関しては4つ、「豊かな生活」を育てるものに関しては8つのキーワードにまとめた。

「豊かな心」を育てるキーワード

表 I - 3. 「豊かな心」の観点とキーワード

観 点	キ ー ワ ー ド
<ul style="list-style-type: none"> ・自分づくりの基礎を固める ・自己開放・自分を理解する・自分の行動決定 ・自分で選んだり、判断したり、決めたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさ
<ul style="list-style-type: none"> ・大人とのかかわりや友だちと一緒に楽しむ ・友だちとかかわり合う・みんなと一緒に楽しい ・身近な人と良い関係、適切な関係をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわり
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のまわりを認識する・身近な自然に親しむ ・環境に働きかける・自然の中で楽しむ ・社会とかかわりの中で生きる 	<ul style="list-style-type: none"> ・もの、自然、社会とかかわり
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を通して活動そのものを楽しむ ・体験を通して学んだことを基盤にする ・経験を通して認識や生活の幅を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験の広まりと深まり

「豊かな心」は学校生活全体を通して指導し、育てるものである。

「豊かな生活」を育てるキーワード

表 I-4. 「豊かな生活」の観点とキーワード

観 点	キ ー ワ ー ド
<ul style="list-style-type: none"> ・カー杯活動し、体を動かすことを楽しむ ・身体づくりの充実期・体力の向上 ・自分の健康な状態を知り、健康管理を心がける 	① 健康な身体
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の生活リズムに慣れる・基本的な生活習慣の定着 ・自分たちの生活をつくる ・生活(自立)に向けての必要な知識、技能などの習得 	② 身辺自立
<ul style="list-style-type: none"> ・認知力や言語理解を高める ・驚きや発見の伝え合い ・自分のことばで表現する、伝える 	③ コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・ものや活動を介して自分の思いを表現する ・やってみよう、試してみようという気持ち ・発表する、見合う・創造する力 	④ 表現する
<ul style="list-style-type: none"> ・好きなことをする ・遊びを広げる ・自分の時間を創造的に過ごせる・余暇活動、趣味 	⑤ 遊ぶ
<ul style="list-style-type: none"> ・身体全体で触る、働きかける、聞く ・学習活動の充実 ・生活につながる学習、生活の幅が広がる学習 	⑥ 学ぶ
<ul style="list-style-type: none"> ・係りを意識した活動 ・役割を意識した活動 ・自らの有用性を見出し、価値を見出す 	⑦ 働く
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな集団に参加する ・まわりに働きかける力・お互いについての理解 ・メンバーと協力する 	⑧ 参加する(集団)
<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会にでていく活動 ・社会的経験、社会認識を広げる ・交通機関やいろいろな施設の利用方法を知る 	⑧ 参加する(社会)

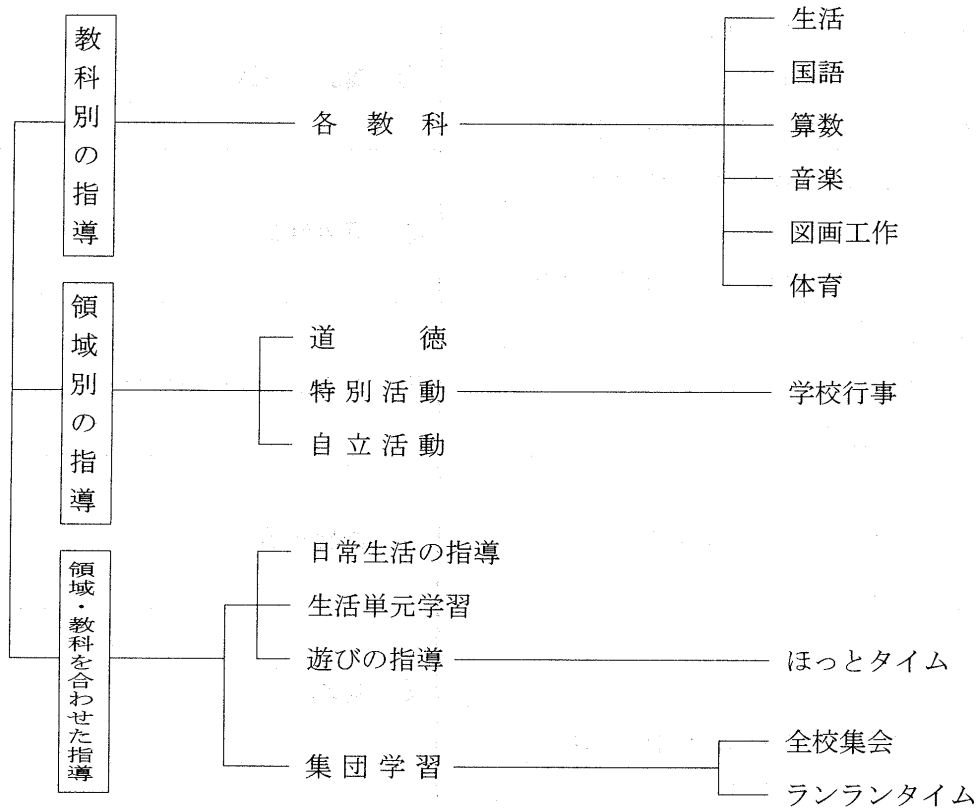
「豊かな生活」は、「年間を通して重点的に指導」するもの「単元や題材によって指導」するもの・「配慮事項として扱いつながりながら指導」するものの三段階として領域や教科と関連づけてあらわすこととした。具体的にはI章の4.「教育課程の基本構造」の中の④「豊かな心と生活」のキーワードと領域・教科のつながりに一覧表としてまとめた。

「豊かな心」と「豊かな生活」のキーワードはそれぞれが単独であるのではなく、個人の中で互いに結びつき、広まり、深まることで、個々の「豊かさ」につながるものになると考えている。

4. 教育課程の基本構造

(1) 小学部

① 教育課程の構造図



② 年間授業時数（※1）

指導の形態	領域・教科を合わせた指導				教科別の指導				領域別の指導			総授業時数
	日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	集団学習	国語・算数	音楽	図画工作	体育	道徳	特別活動	自立活動	
1組（1・2年）	560	70	70	105	35	35	35	35				945
2組（3・4年）	560	70	105	105	35	35	35	35	※2	※3	※4	980
3組（5・6年）	525	70	140	105	70	35	35	35				1015

※1 本校小学部では、低学年（第1学年・第2学年）を小学部1組
 中学年（第3学年・第4学年）を小学部2組
 高学年（第5学年・第6学年）を小学部3組

として表記しており、以下そのように記す

また、40分を1校時として数える

※2 道徳は、教育活動全体を通して指導する

※3 本来特別活動に含まれる「全校集会」は「ランランタイム」と共に集団学習として位置づけた

※4 自立活動は、領域・教科全体を通して指導する

また、必要な児童については「遊びの指導」の時間から抽出して指導する

③ 時間割

小学部 1組

時	限\曜	月	火	水	木	金	土	
8:45~9:45	1	朝の準備						
		着替え						
		遊び・朝の会						
9:50~10:30	2	全校集会	ほっとタイム	ランタイム	ほっとタイム	ランタイム	生活	
10:30~11:00		遊び・トイレ						
11:00~11:40	3	国語・算数	体育	生活	図画工作	音楽	生活	
11:40~12:10	4	着替え・給食準備						帰りの準備 終わりの会
12:10~13:10		給食・歯磨き						
13:10~13:50	5	帰りの準備・トイレ・終わりの会						11:50下校

13:50 下校

小学部 2組

時	限\曜	月	火	水	木	金	土	
8:45~9:45	1	朝の準備						
		着替え						
		遊び・朝の会						
9:50~10:30	2	全校集会	ほっとタイム	ランタイム	ほっとタイム	ランタイム	生活	
10:30~11:00		遊び・トイレ						
11:00~11:40	3	図画工作	国語・算数	生活	音楽	体育	生活	
11:40~12:10	4	着替え			着替え			帰りの準備 終わりの会
		給食準備						
12:10~13:10		給食・歯磨き						11:50下校
13:10~14:10	5	帰りの準備・終わりの会 13:50下校		生活	帰りの準備・終わりの会 13:50下校			
14:10~14:30	6			着替え 帰りの準備 終わりの会				14:30下校

14:30下校

小学部 3組

時	限\曜	月	火	水	木	金	土	
8:45~9:45	1	朝の準備						
		着替え						
		遊び・朝の会						
		国語・算数						
9:50~10:30	2	全校集会	ほっとタイム	ランタイム	ほっとタイム	ランタイム	生活	
10:30~11:00		遊び・トイレ						
11:00~11:40	3	音楽	国語・算数	生活	図画工作	体育	生活	
11:40~12:10	4	着替え						帰りの準備 終わりの会
		給食準備						
12:10~13:10		給食・歯磨き						11:50下校
13:10~13:30		掃除						
13:30~14:10	5	帰りの準備・終わりの会 13:50下校		生活	帰り・終り 13:50下校	生活		
14:10~14:30	6			帰りの準備 終わりの会			帰りの準備 終わりの会	

14:30下校

14:30下校

備考 ○国語、算数はグループ別に学習する
○ほっとタイムは遊びの指導と自立活動を並行して行う

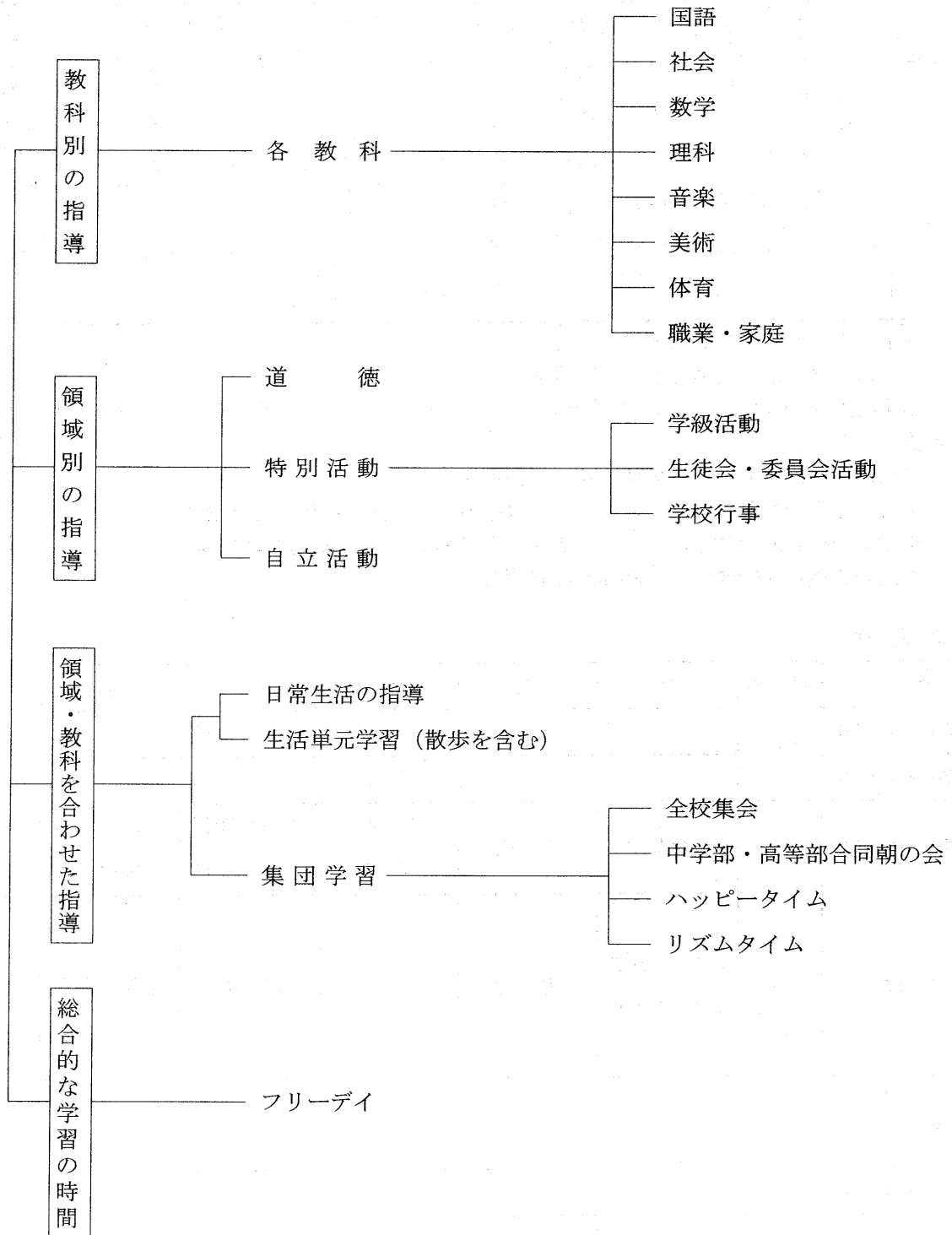
④ 「豊かな心と生活」のキーワードと領域・教科のつながり

		日常生活の指導	遊 び	生 活	集団学習		国 語	算 数	音 楽	図 画 工 作	体 育	道 徳	特 別 活 動	自 立 活 動
					全校集会	ランランタイム								
豊 か な 心	自分らしさ	学校生活全般で指導する												
	人とのかかわり													
	もの、自然、社会 とのかかわり													
	経験の広まりと深まり													
豊 か な 生 活	①健康な身体	○	○	○	○						◎		○	○
	②身近自立	◎		○									○	○
	③コミュニケーション	○	○			◎	○	○					○	◎
	④表現する		○		○	○	○		◎	◎	○		○	○
	⑤遊ぶ		◎	○	○	○			◎	◎	◎		○	○
	⑥学ぶ		◎	○	○	○	◎	◎	○	○	○		○	○
	⑦働く			○		○					○		○	
	⑧参加する	集団			○	◎	◎					○		◎
社会				◎						○			◎	

- ◎ 年間を通して重点的に指導
- 単元や題材によって指導
- 配慮事項として扱いながら指導

(2) 中 学 部

① 教育課程の構造図



② 年間授業時数（※1）

指導の形態	領域・教科を合わせた指導			教科別の指導					領域別の指導			総合的な学習の時間	総授業時数
	日常生活の指導	生活単元学習	集団学習	国語 社会 数学 理科	音 楽	美 術	体 育	職業・家庭	道 徳	特別活動	自立活動		
1 年	315	315	140	140	35	70	70	70					1155
2 年	315	315	140	140	35	70	70	70	※2	※3	※4	※5	1155
3 年	315	315	140	140	35	70	70	70					1155

※1 40分を1校時として数える

※2 道徳は、教育活動全体を通して指導する

※3 本来特別活動に含まれる「全校集会」は「ハッピータイム」「中・高 朝の会」と共に集団学習として位置づけた

※4 自立活動は、領域・教科全体を通して指導する

また、必要な生徒については「グループ学習」の時間に抽出して指導する

※5 中学部の総合的な学習は「フリーデイ」を学期に1～2回実施する

1回の実施は4時間から5時間を設定する

③ 時間割

時	限\曜	月	火	水	木	金	土	
8:50～9:20	1	生 活						
9:20～9:30		リズム・タイム						
9:40～10:20	2	全校集会	生活	中・高 朝の会	グループ学習 ／自立活動	グループ学習 ／自立活動	生活	
10:40～12:10	3	グループ学習 ／自立活動	生活	美術	体育	職業・家庭	生活	
	4							
12:10～13:10	給 食 昼 休 み						12:00下校	
13:10～13:30	清 掃							
13:30～14:20	5	ハッピータイム ゲーム/発表	生活	生活	ハッピータイム 音楽	ハッピータイム 予定		
14:25～14:55	6	生活	生活	14:30下校	生活	生活		

備考 ○グループ学習は国語、数学などを学習度別で指導する

○職業・家庭、美術はグループに分かれて行う

○1限、6限、水曜5限の生活には日常生活指導が含まれる

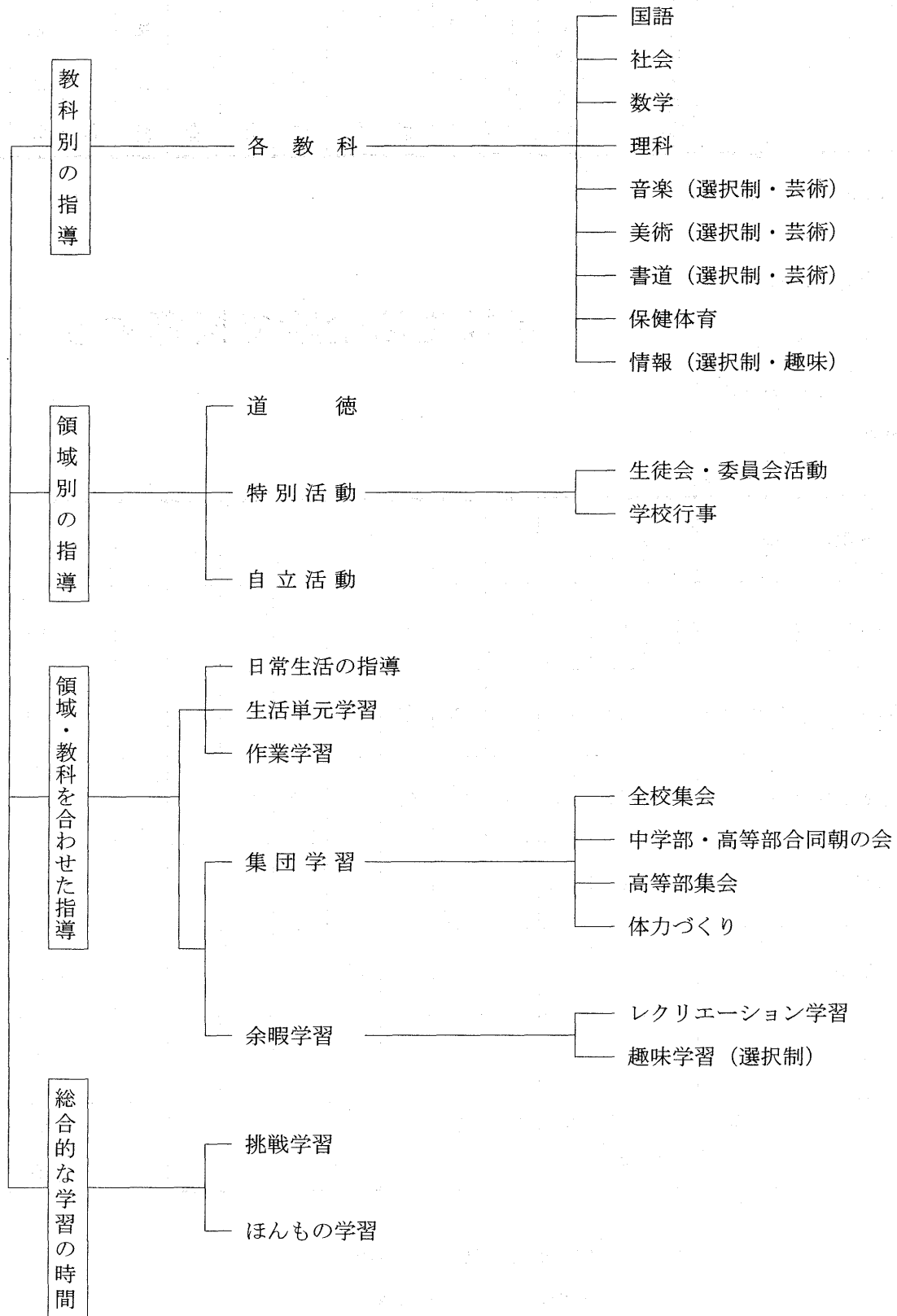
④ 「豊かな心と生活」のキーワードと領域・教科のつながり

		日常生活の指導	生活	集団学習			国語	数学	音楽	美術	体育	職業・家庭	道徳	特別活動	自立活動	総合 フリーデー
				全校集会	中・高朝の会	H・T										
豊かな心	自分らしさ	学校生活全般で指導する														
	人とのかかわり															
	もの、自然、社会 とのかかわり															
	経験の広まり と深まり															
豊かな生活	①健康な身体	○	○	○		○					◎			○	○	
	②身近自立	◎	○											○	○	
	③コミュニケーション	○	○	○		◎	○							○	◎	◎
	④表現する		○	○	◎	◎	○		◎	◎				○	○	○
	⑤遊ぶ		○	○		○								○	○	◎
	⑥学ぶ		○	○		○	◎	◎	○	○	○	○		○	○	○
	⑦働く		○									◎		○		
	⑧参加する	集団		◎	◎	○	◎				○			◎		○
社会			◎			○							◎			

- ◎ 年間を通して重点的に指導
- 単元や題材によって指導
- 配慮事項として扱いながら指導

(3) 高等部

① 教育課程の構造図



② 年間時数 (※1)

指導の形態	領域・教科を合わせた指導					教科別の指導					領域別の指導			総合的な学習の時間	総授業時数		
	日常生活の指導	生活単元学習	作業学習	集団学習※2	レクリエーション学習	選択		国語 社会 数学 理科	保健 体育	選択			道徳			特別活動(委員会)	自立活動
						趣味学習	情報			美術	音楽	書道					
1年	210	157.5	210	192.5	35	105		175	52.5	52.5				35		1225	
2年	210	157.5	210	192.5	35	105		175	52.5	52.5			※3	35	※4 ※5	1225	
3年	210	157.5	210	192.5	35	105		175	52.5	52.5				35		1225	

※1 40分を1校時として数える

※2 集団学習には「全校集会」「中・高朝の会」「高等部集会」「体力づくり」が含まれる

※3 道徳は、教育活動全体を通して指導する

※4 自立活動は、領域・教科全体を通して指導する
また、必要な生徒については抽出して指導する

※5 高等部の総合的な学習の時間として、次の内容を行う

ほんもの学習：各学期に1回ずつ、計3回校外に出て体験的学習を行う

1回の実施につき、事前事後指導として計6時間程度を設定する

挑戦学習：各学期1回をめぐり、生徒が自ら選んだ課題に取り組む

1回の実施につき、練習時間・発表などで計15時間程度を設定する

③ 時間割

時	限\曜	月	火	水	木	金	土	
8:45~9:05	1	朝の会						生活
9:10~9:30		体力づくり						
9:40~10:20	2	全校集会	レクリエーション学習	中・高朝の会	委員会	高等部集会		
10:25~11:05	3	グループ学習/自立活動						
11:10~12:10	4	趣味/情報	作業	体育	趣味/情報	芸術		
12:10~13:10	給食 休憩						12:00下校	
13:10~13:25	清掃							
13:30~14:10	5	作業	作業	生活	作業	生活		
14:10~14:30	6			終わりの会				
14:35~15:00	終わりの会			14:30下校	終わりの会			

備考 ○グループ学習は国語、数学などを習熟度別に指導する

○趣味/情報は、趣味的内容及び情報のうちいずれかひとつを選択して行う

○芸術は、音楽、美術、書道のうちいずれかひとつを選択して行う

④ 「豊かな心と生活」のキーワードと領域・教科のつながり

		指導の形態																							
		日常生活の指導	生活	作業学習	集団学習				レクリエーション学習	選択		国	芸術			保	道	特	自	総合					
					体力づくり	全校集会	中・高朝の会	委員会		部集会	趣味学習		情報	社	美					音	書	健	徳	別	立
豊かな心	自分らしさ	学校生活全般で指導する																							
	人とのかかわり																								
	もの、自然、社会とのかかわり																								
	経験の広まりと深まり																								
豊かな生活	①健康な身体	○	○		◎	○													◎		○	○		○	
	②身近自立	◎	○							○												○	○	○	
	③コミュニケーション	○		○		○				○	○											○	◎	○	○
	④表現する					○	◎		○		○	○	○	◎	◎	◎						○	○		○
	⑤遊ぶ		○			○				◎	◎			○	○	○	○					○	○	◎	○
	⑥学ぶ		○			○					○	◎	◎	○	○	○	○					○	○		◎
	⑦働く		○	◎																		○			
	⑧参加する	集団		○			◎	○	○	◎	○									○		○		○	○
社会			◎	○																		◎		◎	

- ◎ 年間を通して重点的に指導
- 単元や題材によって指導
- 配慮事項として扱いながら指導

資料

各学部の年間授業時数をまとめて一覧表にしたものが、表1-5である。

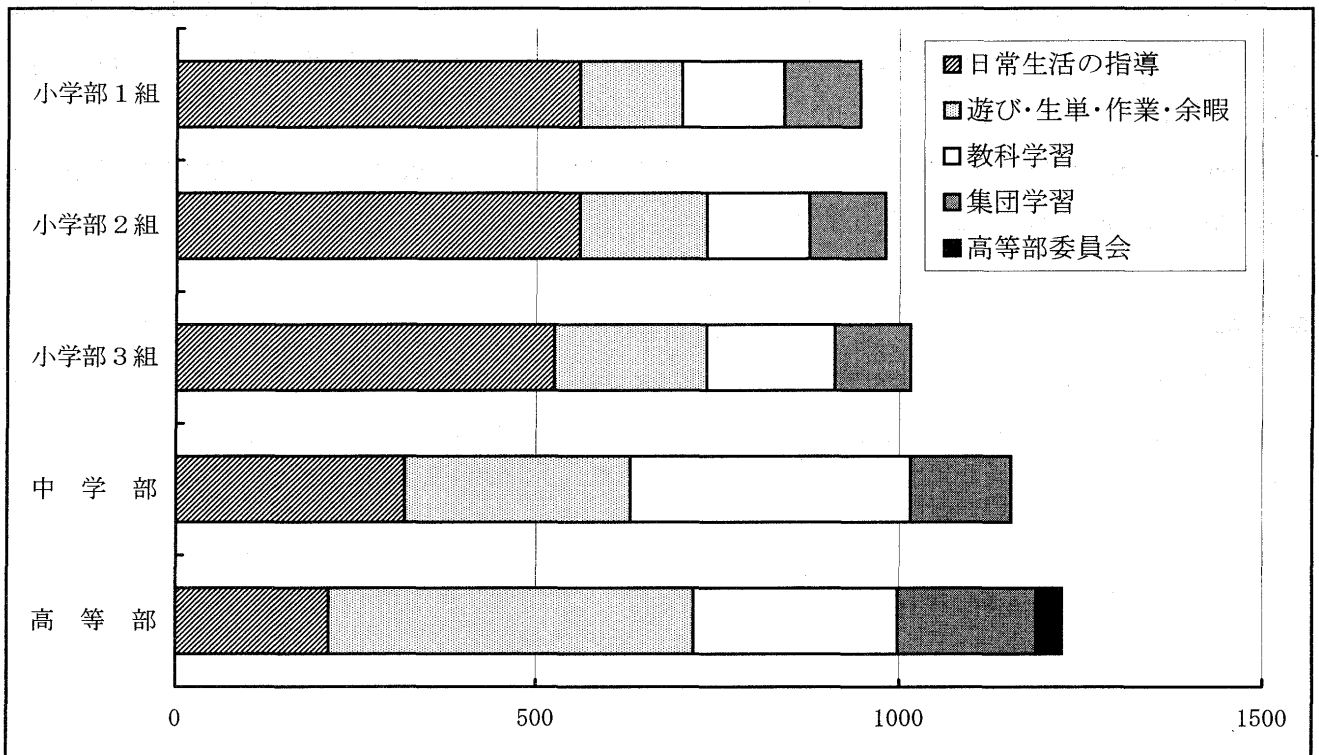
表I-5. 各学部の時数

	領域・教科を合わせた指導 (※1)		教科学習	集団学習	高等部 委員会	総時数
	日常生活の 指導	遊び・生単・ 作業・余暇				
小学部 1組	560(59)	140(15)	140(15)	105(11)		945(100)
小学部 2組	560(57)	175(18)	140(14)	105(11)		980(100)
小学部 3組	525(52)	210(21)	175(17)	105(10)		1015(100)
中学部	315(27)	315(27)	385(33)	140(12)		1155(99)
高等部	210(17)	507.5(41)	280(23)	192.5(16)	35(3)	1225(100)

※1 「領域・教科を合わせた指導」は「日常生活の指導」とそれ以外の「遊びの指導、生活単元学習、作業学習、余暇学習」とに分けた。小学部では「遊びの指導」と「生活単元学習」、中学部では「生活単元学習」、高等部では「生活単元学習」「作業学習」「趣味学習」「レクリエーション学習」が行われている

※2 表中の(数字)は全体を100としたときの割合(以下割合と表記)である

表I-5の表をもとにして、図I-2で各学部の年間授業時数の割合と変化を表した。



図I-2. 各学部の年間授業時数の割合と変化

領域・教科を合わせた指導

「領域・教科を合わせた指導」については小学部では全体に占めるその割合が75%前後、中学部・高等部では減って54%・58%となっている。

小学部においては「領域・教科を合わせた指導」の中の「日常生活の指導」が総授業時数の半分以上を占めており、小学部の時期に必要な「生活のリズム 基本的生活習慣の定着」と直結して「日常生活の指導」の重要性を示している。また年齢が上がるにつれて、「日常生活の指導」の時間が減り、「生活単元学習」の時間が増えてくる。

中学部になると「日常生活の指導」と「生活単元学習」の時数は同じになり、次の「教科学習」とともに「生活単元学習」が最も充実する時期となっている。さらに高等部では「日常生活の指導」の時数は「遊び・生単・作業・余暇」の時数の半分以下となる。卒業後の社会生活に向けて「作業学習」「余暇学習」などが入ってくるため、「生活単元学習」の時数は少なくなるが「遊び・生単・作業・余暇」の時数は最も多くなる。

教科学習

「教科学習」では、「体育」・「音楽」・「図画工作／美術」ばかりでなく、どの学部においても「国語」・「算数／数学」・「理科」・「社会」（理科と社会については合わせた指導の中で行われることもある）といった教科の指導も大切にしている。

「教科学習」の時数は「職業・家庭」が入ってくる中学部で最も多くなっている。本校では中学部の時期に「知識や技能を生活に生かす」ことが必要であると考えており、それが「生活単元学習」や「教科学習」の時数に現れているといえよう。

小学部で学ぶ力を育み、中学部で基礎的な知識や技能を身につけて生活に生かし、高等部では小学部・中学部で培った力をもとに、社会生活に結びつけていく、といった教科学習の流れとなっている。

集団学習

「集団学習」については、長年本校において全校的に大切にしてきた学習であり、「全校集会」及び「小学部・高等部合同朝の会」の他に、名称は異なるがどの学部でも「学部集会」に当たるものには同じく70時間ずつ取っている。

以上、各学部の児童生徒の発達やその時期に必要なことに合わせた指導や時数配分が考えられている。

時間割 ～平成14年度実施予定～

小学部1組

時	限\曜	月	火	水	木	金
8:45~9:45	1	朝の準備				
		着替え				
		遊び・朝の会				
9:50~10:30	2	全校集会	ランタイム/生活	ほっとタイム	ランタイム	生活/ほっとタイム
10:30~11:00		遊び・トイレ				
11:00~11:40	3	図画工作	生活	国語・算数	音楽	体育
11:40~12:10	4	着替え・給食準備				
12:10~13:10		給食・歯磨き				
13:10~13:30		遊び・トイレ				
13:30~14:10	5	帰りの準備・終わりの会				

14:10 下校

小学部2組

時	限\曜	月	火	水	木	金	
8:45~9:45	1	朝の準備					
		着替え					
		遊び・朝の会					
9:50~10:30	2	全校集会	ランタイム/生活	ほっとタイム	ランタイム	生活/ほっとタイム	
10:30~11:00		遊び・トイレ					
11:00~11:40	3	体育	生活	図画工作	音楽	国語・算数	
11:40~12:10	4	着替え					
		給食準備					
12:10~13:10		給食・歯磨き					
13:10~13:30		遊び・トイレ					
13:30~14:10	5	帰りの準備 終わりの会			国語・算数 /体育	帰りの準備 終わりの会	
14:10~14:40	6	14:10下校			着替え 帰りの準備 終わりの会	下校14:10	

14:40下校

小学部3組

時	限\曜	月	火	水	木	金	
8:45~9:45	1	朝の準備					
		着替え					
		遊び・朝の会					
9:50~10:30	2	全校集会	ランタイム/生活	ほっとタイム	ランタイム	生活/ほっとタイム	
10:30~11:00		遊び・トイレ					
11:00~11:40	3	体育	生活	音楽	図画工作	国語・算数	
11:40~12:10	4	着替え					
		給食準備					
12:10~13:10		給食・歯磨き					
13:10~13:30		掃除					
13:30~14:10	5	帰りの準備 終わりの会			国語・算数 /体育	生活	
14:10~14:40	6	14:10下校			着替え 帰りの準備 終わりの会		

14:40下校

備考 ○国語・算数はグループ別に学習する

○ほっとタイムは遊びの指導と自立活動を並行して行う

○ランタイム/生活、生活/ほっとタイム、国語・算数/体育は隔週で行う

中学部

時	限\曜	月	火	水	木	金
8:50~9:20	1	生 活				
9:20~9:30		リズム・タイム				
9:40~10:20	2	全校集会	生 活	中・高朝の会	グループ学習 ／自立活動	グループ学習 ／自立活動
10:40~12:10	3	グループ学習 ／自立活動	生 活	美 術	体 育	職業・家庭
	4					
12:10~13:10	給 食 昼 休 み					
13:10~13:30	清 掃					
13:30~14:10	5	ハッピータイム (ゲーム/発表)	生 活	生 活	ハッピータイム (音 楽)	ハッピータイム (予 定)
14:20~15:00	6	生 活	生 活		生 活	生 活
				14:30下校		

- 備考 ○グループ学習は国語、数学等を課題別で指導する
 ○職業・家庭、美術はグループに分かれて行う
 ○1限、6限、水曜5限の生活には日常生活指導が含まれる

高等部

時	限\曜	月	火	水	木	金
8:45~9:05	1	朝 の 会				
9:10~9:30		体 力 作 り				
9:40~10:20	2	全校集会	レクリエーション 学習	中・高朝の会	委員会	高等部集会
10:25~11:05	3	グループ学習／自立活動				
11:10~12:10	4	作 業	芸 術	体 育	趣味／情報	生 活
12:10~13:10	給 食 休 憩					
13:10~13:25	清 掃					
13:30~14:10	5	作 業	作 業	生 活	作 業	生 活
14:10~14:50	6			終わりの会		
14:50~15:10				終わりの会		
				14:30下校		
			終わりの会			

- 備考 ○グループ学習は国語、数学等を習熟度別に指導する
 ○趣味／情報は、趣味的内容及び情報のうちいずれかひとつを選択して行う
 ○芸術は、音楽、美術、書道のうちいずれかひとつを選択して行う